

第 9 号…平成28年1月

# 協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

- 3 新年のごあいさつ
- 4 年男、今年の抱負を大いに語る！
- 6 **関東地域づくり協会からのお知らせ**  
第28回 道のある風景写真コンクール
- 8 平成27年度 関東防災エキスパート講習会を実施しました  
東京臨海広域防災公園合同訓練に参加
- 9 **社会資本に関する話題**  
平成26年度道路メンテナンス年報が公表されました  
鬼怒川緊急対策プロジェクト
- 10 **プロジェクトK⑦**  
湖底に沈む土地、人々の思いを受け止めて  
宮ヶ瀬ダム
- 14 **関東の河岸めぐり⑥**  
福岡河岸 埼玉県
- 16 **関東の土木遺産⑦**  
柳原水閘 千葉県
- 18 **会員のひろば**  
桜美会(取手桜ヶ丘GC)活動中！
- 19 **会員情報**  
新会員紹介・お悔やみ  
編集委員会だより
- 20 **ピックアップ 関東の「道の駅」⑤**  
発酵・醸造文化を町おこしのきっかけに  
道の駅発酵の里こうざき



### 表紙の言葉

反町維吹さん(群馬県高崎市立長野小学校3年生)

#### 帰路

この写真は、当会が主催する第28回「道のある風景写真コンクール」で小学校の部の金賞に選ばれた群馬県高崎市立長野小学校の反町維吹さんの作品です。

「お父さん、お兄ちゃんと一緒に高崎のだるま市で縁起だるまを買っての帰り道の情景です。『大きなだるまを買っての帰り道の親子の仲の良い情景がよく撮れている』また『堤防の奥に雪をかぶった浅間山と自転車の人物を入れるなど、冬の雰囲気をととても上手に表現した作品』と審査員からお褒めの言葉を頂きました」

# 理事長あいさつ 新年のごあいさつ

(一社)関東地域づくり協会 理事長  
奥野晴彦



協会だより第9号をお届けするにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

今冬は比較的暖かく、新年も例年にない温暖な日が続きました。会員の皆さまには、すがすがしい気持ちで新しい年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

一方、海外からは新年早々衝撃的なニュースがもたらされました。中東での大国間の国交断絶、北朝鮮の核実験など、今後の我が国の政治、経済、国民生活などあらゆる局面に大きな影響を及ぼす出来事です。昨年でもテロ事件の頻発やギリシャや中国の経済情勢の悪化など多くの出来事があり、我が国もいろいろな面で影響を受けました。グローバル化が一段と進展し、世界のどこで何が起こっても、我が国に大きな影響を及ぼす時代になってきています。このような出来事に対してはその都度迅速に適切な対応を行い、影響を最小限にとどめる必要がありますが、多少の影響を受けてもびくともしない、強靱な経済社会を構築することも大変重要なことと思います。

国内では、昨年も火山の噴火や豪雨による災害など自然災害が多く発生しました。関東地域でも9月には関東東北豪雨により鬼怒川の堤防が決壊するという激甚な災害が発生しました。関東では29年ぶりの直轄堤防の決壊です。濁流にのまれる人家や田畑の様子や、ヘリコプターによる救助活動を報じるテレビの画面にくぎ付けになった方も大勢いらっしゃると思います。水の力のすごさをあらためて痛感しました。被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。堤防の決壊は誠に残念なことです。この豪雨に際しては、鬼怒川上流のダム群は災害の軽減に大いにその役割を果たしました。諸先輩が築かれた成果が遺憾なく発揮されたといえます。また、発災直後から国土交通省のテックフォースをはじめとする多くの職員、関連企業による排水作業、堤防の仮復旧などが迅速に行われ、仮設堤防の設置工事も2週間で完了させることができました。さらに、これらの対応にあたっては、防災エキスパートの皆さまにも大いに活躍、貢献していただきました。あらためて心からお礼申し上げます。

安全、安心の基盤がまだまだ不十分であるということを認識させられたところです。

昨年の我が国の人口は約30万人の自然減で、これまでの記録を更新したようです。この傾向はしばらく続くと思定されますが、人口の高齢化と相まって、さまざまな活動を維持していくことが困難になる地域も出現しつつあります。関東でも例外ではありません。

昨年策定された「国土形成計画」では、今後の国づくりのキーワードとして、「個性」、「コンパクト」、「対流」などが挙げら

れています。コンパクトに機能が集中した中心市街地や拠点があり、地域が道路や公共交通のネットワークで連結され、個性的な活動が営まれる。このような地域がさらに交流・連携し、活力ある都市圏や地域が構築されるというイメージを持てばよいのでしょうか。

一方、東京を中心とする首都圏は、これまで以上に日本経済をリードする地域として発展することが期待されており、世界の諸都市との競争に打ち勝てなければなりません。そのためにも、地震、洪水等に対する安全性の向上、並びに経済活動を支える交通、通信等の基盤充実を図る必要があります。

何が起こっても大丈夫な経済社会を構築することも、国土のあらゆる地域の活性化を図ることも、それを支えるしっかりしたインフラの充実と、その機能の健全性が保持されることがあって初めて可能になると思います。このことを多くの人に知っていただく努力も欠かすことはできません。

当協会の昨年の活動はおおむね順調に推移いたしました。発注者支援業務等については、事業譲渡の第三段階として、河川巡視、道路許認可適正化支援の管理系の業務を引き継ぎました。計画通りにいけば、今年は譲渡最終年です。後顧の憂いなく、現場の業務が間違いなく行われるよう環境を整え、しっかりと引き継ぐ必要があります。

さて、関東建設弘済会が昭和41年に設立されて今年で50年になります。弘済会並びに協会は、これまで関東地域のインフラ整備・管理の支援等を通じ関東の地域づくりに貢献してまいりました。こののちも名前に恥じないよう、今までとは違った面での活動も取り込み、安全で、活気に満ちた潤いのある地域づくりに貢献していくことが大きな使命であると考えます。

毎年のように発生する豪雨による水害、いつ来るともしれない大規模地震に対する日常の防災活動、災害発生時の迅速な対応、地域活性化支援、環境整備などこれまで行ってきた活動に加え、インフラ整備・管理の総合的マネジメント、インフラの品質確保や機能の健全性の維持、地域づくりを支える人づくり、地域活性化のための拠点づくりとネットワーク化などの活動を展開する必要があると考えます。

今年は、これらの取り組みを通じ、協会の新たな歴史の礎を築く大事な年であるとの認識の下、職員一同全力を挙げて取り組んでまいります。皆さまにおかれましては、これまで以上に協会活動にご理解とご協力をいただくことを心よりお願いいたします。

終わりに、今年が皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

会員、職員の中から、  
めでたく年男に選ばれた  
代表4名の方々に、今年の抱負をお聞きしました。

# 年男、今年の抱負を 大いに語る！

# 申年

新しい1年が  
始まります。  
気持ちを新たに！



**竹野照夫さん**

昭和7(1932)年生まれ

元川崎国道工事事務所副所長

新年おめでとうございます。

年明けのあいさつとして、毎年使ってきたことばですが、今年こそはという思いが込められたすばらしいことばだと思っています。

とくに、今年は私にとって7巡目の干支ということで格別の気持ちです。ここまで来られたのは申すまでもなく、これまで職場等で私と関わりを持ってくださった多くの皆さまの支えによるものと感謝しております。

さて、一年前になりますが、クラスメートとして親しくしている友人から届いた年賀状に、次のようなことが書かれていました。

「ここまで来ると、遠慮なく増えるのは年(年齢)の数、そして反対に減るのは残された時間、と言った誰かのことばが、妙に真実味を帯びてきますね」と。

私もその年になった故か、このことばを素直に受け入れ、残された時間を如何に有意義に使うかを考えながら、日々を過ごすことにしています。

終わりにりましたが、本年も皆さま方のますますのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。



**佐藤 佐さん**

昭和19(1944)年生まれ

元関東地方建設局道路部路政調整官  
元常陸河川国道事務所副所長

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

私はこれまでに看板・日よけ・音放線などの道路用処理事務、道路管理瑕疵・公害・環境などの訴訟対応などの道路管理行政事務、道路管理センター・(株)東京ソイルリサーチの仕事に携わってきました。

一昨年から、私は地域の伝統ある「蔵前老人クラブ」

を次世代の方々に引き継ぐためにと、会長をお引き受けしました。引き受けた以上、これまでの経験を生かして、本年も、「明るく、楽しく、元気よく」「絆を大切に」と、より一層の活動をしたいと思っています。

「老人クラブ」は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、地域を基礎とする高齢者の自主的な組織として、自治会・ボランティア・NPO等と共に、いつまでも元気に暮らすために生活支援・介護予防をする「地域包括ケアシステム」の構築の一要員として期待されています。昨年は「県老連の健康づくり大学」で、学ばせていただきました。これを参考にして、地域の特性を生かして活動します。

「詩吟の稽古」「百までコンサート」「童謡・唱歌の会」「新三国会」等のまとめ役もしています。また、「エッ」と驚かれるようなこと、例えば八十路までに尾瀬へ行くことや、孫たちとのスポーツも、老人クラブの活動の間に行っていきたいです。

『クラブとは 健康・友愛・奉仕なり』

本年もご指導・ご鞭撻をお願いいたします。



## 山内 均さん

昭和31(1956)年生まれ

(一社)関東地域づくり協会  
技術部第一積算室調査役

新年あけましておめでとうございます。

奇しくも、協会に採用された平成4年も申年でしたので、協会において2回目の干支を迎えることとなりました。採用当初は八景島の駐車場建設に従事し、以降は東国、常総、首都国の事務所内にて主に積算業務を担当し、また持ち帰り業務に移行してからは、首都国、北首都、江戸川を担当し現在に至っております。また途中関東技術事務所では、新技術（NETIS）開発相談窓口にて5年間携わる等、その時々いろいろなことを学ばせていただきました。そしてこれまで多くの人たちとの出会い

が、私の大きな財産となっております。

さて「猿に烏帽子」ということわざがあります。意味は「似つかわしくないことをするたとえ。また、外見だけを取り繕って、中身が伴わないことのとえ」だそうです。職員として残り少ない年月ですが、愛車のロードバイクで健康を維持し、年齢に見合った生き方ができれば幸いと思っています。とは言ってもまだまだ未熟者の私ですので、今後とも皆さまのご指導を、よろしくお願いたします。



## 赤井阪雄二さん

昭和43(1968)年生まれ

(一社)関東地域づくり協会  
総務部職員課事務員

新年あけましておめでとうございます。

早いもので、今年、4回目の干支を迎え48歳になりました。

思い起こせば前回の干支を迎えた年に、正職員として採用され12年。

今回の干支を迎えるまでには、原因不明の進行性の難聴から失聴してしまい、精神的につらい時期もありましたが、現在では手術で機械を装着することにより、静かな所であれば何とか会話ができるようになりました。

しかし、機械では限界もあり周囲の方には迷惑をかけてしまうこともあります。サポートしていただきながら勤務しております。皆さまには大変感謝しています。

今年の抱負ですが、まだ子どもが小さいので小さい時にしかできない思い出づくりや、難しいことですが周囲の方とのコミュニケーションをうまくとれるように、何か良い方法を見つけられればと思っております。

本年も変わらぬ皆さまのご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

# 第28回 道のある風景写真コンクール

昭和63年にスタートした「道のある風景写真コンクール」。28回目となった今回も、私たちの生活に欠かせない「道」をテーマに小学生から高校生まで多数の応募がありました。

応募枚数は9,778枚、応募者数は4,889人。写真家の木村恵

一先生と熊切圭介先生、関東地方整備局道路部情報管理官の戸倉健司さん、当会の専務理事後藤敏行の4名による審査で入賞作が決定しました。

入賞作品は関東の道の駅などで展示を予定しています。



審査風景

## 金賞



小学校の部

### 「帰路」

反町維吹さん

群馬県 高崎市立長野小学校3年生

中学校の部

### 「夜の街路」

伊藤 芳さん

東京都 武蔵野市立第六中学校2年生

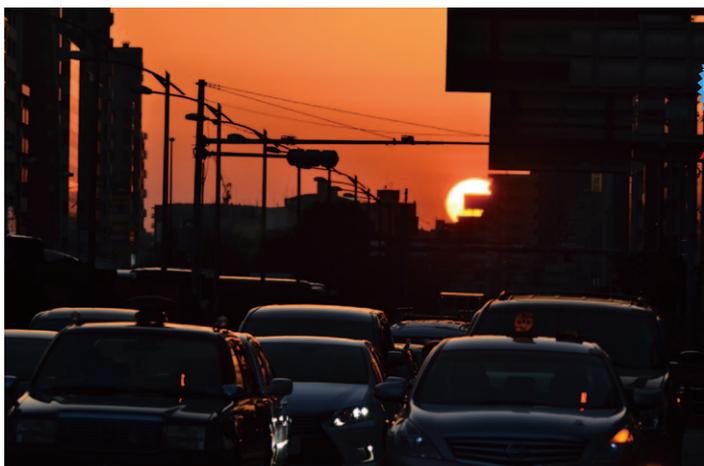


高等学校の部

### 「家路」

並木達郎さん

群馬県 新島学園高等学校2年生



主催：(一社)関東地域づくり協会  
協力：ビックカメラ

# 銀賞



小学校の部

「お散歩の途中で」

大西真子さん  
埼玉県 草加市立  
高砂小学校4年生

「わたしのかぞく」

笠井あずみさん  
山梨県 市川三郷町立  
六郷小学校2年生

小学校の部



「清水の舞台から」

海老澤香音さん  
千葉県 松戸市立  
第六中学校3年生

中学校の部



中学校の部

「SSK(すすき)」

富永匠海さん  
千葉県 松戸市立第六中学校1年生

高等学校の部

「お祭へ」

藤井智之さん  
茨城県 県立並木中等教育学校3年生



高等学校の部

「日本経済の流れ」

横内太一さん  
神奈川県  
県立秦野曾屋高等学校2年生



小学校の部

「海に続く道」

柿倉一輝さん  
千葉県 印西市立木下小学校6年生



中学校の部

「円球の中に見つけた道」

鈴木優花さん  
埼玉県 西武学園文理中学校2年生

# ビックカメラ賞

高等学校の部

「荒川土手でマカンコウサッポウ」

陣内友希子さん  
東京都 共立女子高等学校1年生



## 平成27年度 関東防災エキスパート講習会を実施しました

平成27年10月から12月にかけて、各地で平成27年度の「関東防災エキスパート支部別講習会」を実施しました。

10月13日に開催された四支部合同講習会（大宮支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部合同）には約155名が参加。右記の要領で情報提供や講演会が行われました。

- (1) 講習会  
「関東地方整備局の防災対策」  
関東地方整備局 総括防災調整官  
塚原隆夫氏
- (2) 講演会  
「阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた  
首都直下地震の備え」  
一般社団法人関東地域づくり協会  
地域づくり研究所 客員研究員 岡山和生氏  
「地球温暖化による水災害とBCP」  
公益財団法人えどがわ環境財団 理事長  
土屋信行氏



東京臨海広域防災公園で行われた  
四支部合同講習会

### 平成27年度関東地方防災エキスパート講習会実施日

支部名	登録者数	参加者数	実施日・時間	場所	内容
水戸支部	68名	31名	11月30日(月) 10:00~15:00	茨城県職業人材育成センター	講習会・講演会
宇都宮支部	49名	17名	11月26日(木) 10:00~16:00	栃木県教育会館	講習会・現場視察
高崎支部	88名	40名	12月9日(水) 10:00~15:00	群馬県市町村会館	講習会・講演会
大宮支部	208名	61名	10月13日(火) 10:30~15:30	東京臨海広域防災公園 [そなエリア東京]	講習会・公園視察
千葉支部	218名	60名			
東京支部	37名	14名			
神奈川支部	62名	20名			
<b>四支部計</b>	<b>525名</b>	<b>155名</b>			
甲府支部	45名	29名	11月27日(金) 10:00~16:30	(一財) 地場産業振興センター	講習会・現場視察
長野支部	40名	17名	12月4日(金) 10:30~14:30	ほりでーゆ〜四季の郷	講習会・公園視察
<b>合計</b>	<b>815名</b>	<b>289名</b>			

## 東京臨海広域防災公園合同訓練に参加

11月16日（月）、東京臨海広域防災公園にて東京臨海広域防災公園合同訓練が実施されました。同公園は、平常時は憩いの空間として開放されている他、防災体験学習施設「そなエリア」も併設し広く国民に活用されていますが、



大規模災害が発生した場合には、政府の緊急災害現地対策本部が設置されます。

この合同（内閣府・昭和記念公園事務所・防災エキスパート）訓練は、大規模災害発生時に速やかに防災初動対応に移行できるよう、関係者が一堂に会して行われたものです。今年度が2回目の開催です。

当日は、「土日祝祭日の14時に東京湾を震源地とするM7.3の地震が発生、東京23区の震度は7」という想定の下、情報伝達訓練、施設の被災状況調査訓練などを中心に訓練が実施されました。訓練後は、参加者による意見交換会も行われました。

# 平成26年度道路メンテナンス年報が公表されました

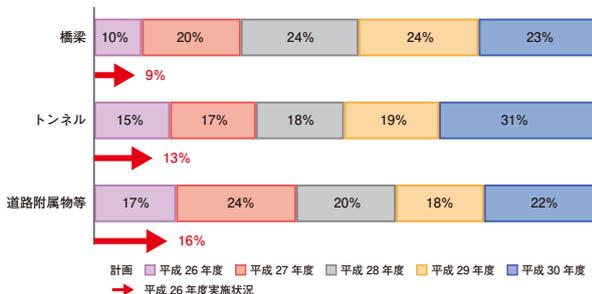
平成25年の道路法の改正等を受け、平成26年7月より、道路管理者はすべての橋梁、トンネル等について、5年に1度、近接目視で点検を行い、点検結果として健全性を4段階で診断することになりました。

これを受けて国土交通省では、平成26年度の点検実施状況、点検結果を「道路メンテナンス年報」としてまとめました。これらのデータは今年度が初公表であり、道路インフラの現状や老朽化対策について、広く国民・道路利用者に理解してもらうことを目的としています。また、行政関係者が今後の措置方針の立案に利用するだけでなく、大学や民間企業での維持管理分野の分析・研究開発での活用も期待されています。

## 平成26年度の点検実施状況（全体）

- 平成26年度において、橋梁は全国約72万橋のうち、約6万橋の点検を実施。
- なお、各管理者別の点検実施率は、全体で約9%、管理者別では、国土交通省約15%、高速道路会社約16%、都道府県・政令市等約12%、市区町村約7%。

## 点検実施状況（橋梁・トンネル・道路附属物等）

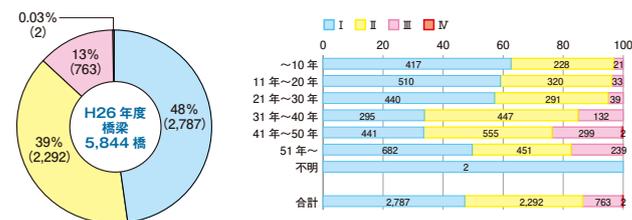


## 平成26年度の点検結果（橋梁）

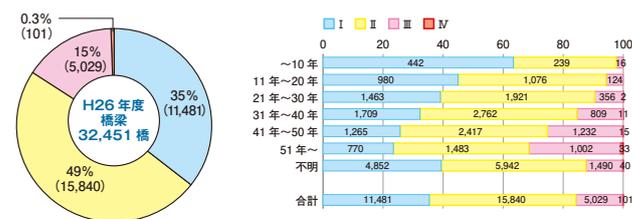
- 平成26年度に点検を実施した橋梁のうち、緊急又は早期に修繕などの措置を行う必要のある橋梁（判定区分Ⅲ及びⅣ）が、国は約13%（763橋）であるのに対して、市区町村では約16%（5,130橋）。
- 建設経過年数が長くなるほど、早期に修繕などの措置が必要な橋梁の割合が多くなっている。
- 緊急措置段階である判定区分Ⅳの橋梁については、速やかに緊急措置を実施したところである。

## 判定区分と建設経過年度（橋梁）

### [国土交通省]



### [市区町村]



## （橋梁、トンネル等の健全性の点検結果の判定区分）

区分	状態
I	健全 構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階 構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階 構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階 構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

（出典：国土交通省 HP）

# 鬼怒川緊急対策プロジェクト

鬼怒川では平成27年9月関東・東北豪雨により、1箇所 の堤防決壊、7箇所の溢水などにより多くの家屋浸水被害等が発生するとともに、避難の遅れによる多数の孤立者が発生しました。これに対し防災エキスパートは延べ32名が出動し、被災調査のアドバイス等を支援しました。

このたび、被害の大きかった鬼怒川下流域（茨城県区間）において、国、茨城県、常総市など鬼怒川沿川の7市町が主体となり、ハード面・ソフト面が一体となった治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェクト」を実施することになり、平成28年1月11日、着手式が開催されました。

## 鬼怒川緊急対策プロジェクトの概要

### ■ハード対策（事業費合計約600億円）

	鬼怒川（直轄事業：国土交通省）	八間堀川等（補助事業等：茨城県）
事業内容	堤防整備（かさ上げ・拡幅）、河道拡幅	
事業期間	平成27年度～平成32年度	平成27年度～平成29年度
事業費	約580億円	約23億円

### ■ソフト対策（円滑な避難の支援）

- ・タイムラインの整備とこれに基づく訓練
- ・市町、水防団、地域住民等が参加する危険箇所の「共同点検」の実施
- ・関係機関の参加による広域避難に関する仕組みづくり等

# 湖底に沈む土地、 人々の思いを受け止めて

## 宮ヶ瀬ダム



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第27回は、宮ヶ瀬ダム建設にあたって用地の取得に携わり、水没する地域の人々と交渉を重ねた古谷好夫さん、上野徳さんと現場を訪ねました。



### 古谷好夫さん

昭和35(1960)年入省。霞ヶ浦導水工事事務所副所長を務めた後、平成8(1996)年退職。現在は郷里の石川県輪島市に在住。

### いさお 上野徳さん

大和測量設計株式会社総合補償部長。昭和41(1966)年入省。関東地方整備局用地部用地調査官を務めた後、平成17(2005)年退職。



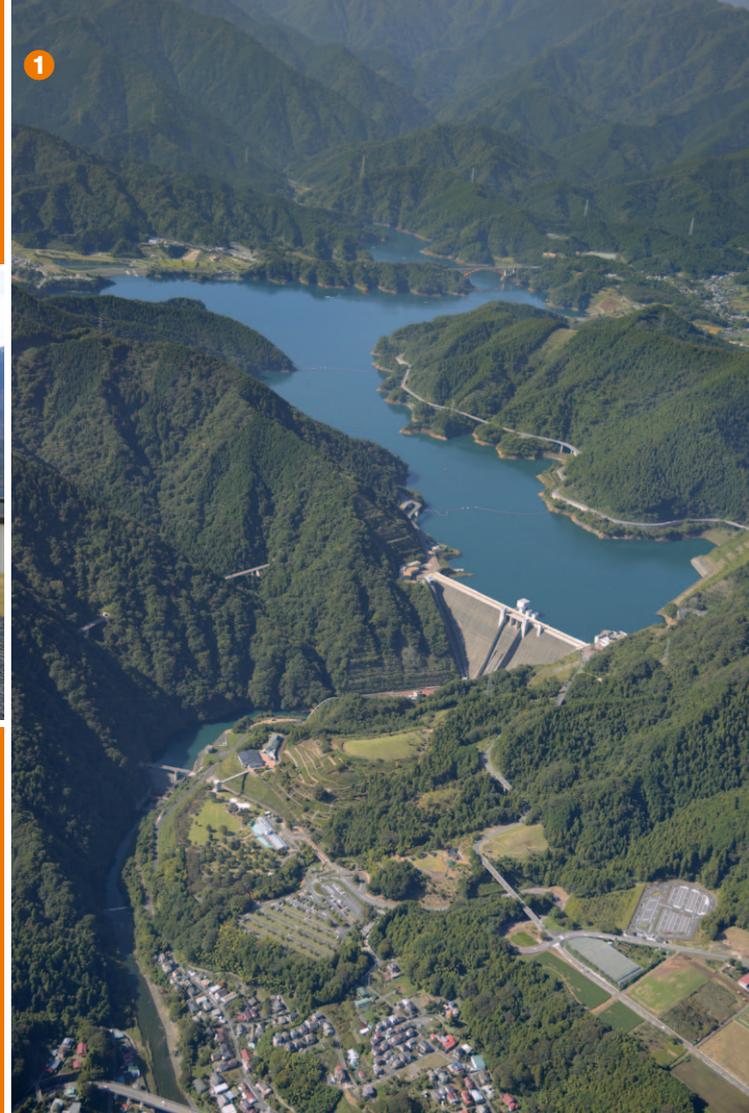
① “約2億t”の貯水量を誇る宮ヶ瀬ダム。水没地の面積は4.9km<sup>2</sup>。移転戸数は281戸、1,136名が代替地で新しい生活をするようになった。写真の奥左手にもダム湖が広がっている  
(提供:相模川水系広域ダム管理事務所)



② 商業用の代替地である水の郷地区に佇む記念碑。移転することになった人々の名が刻まれる



③ ダム本体を背に、思い出を語り合う



## 計画発表から31年を経て完成した 首都圏最大級の多目的ダム

宮ヶ瀬ダムは相模川の支川の一つである中津川に造られた、首都圏最大級の多目的ダムである。山の谷間に広がるダム湖、そびえ立つ堤高156m、堤頂長375mの重力式コンクリートダムは、東京、横浜から50km圏内にあるとは信じがたいほどのスケール感だ。総貯水量は193,000,000 m<sup>3</sup>(約2億t)。横浜市、川崎市をはじめ神奈川県下の15市5町に水道水を供給し、台風などによる洪水から下流地域を守るほか、川の環境を正常に保ち、発電用水を確保する役目も果たす。道志川の、ダム上流から取水する道志導水路、ダム下流へ導水する津久井導水路を使って神奈川県が管理する相模川本川にある相模ダム、城山ダムと連携した総合運用を図ることで、効率的な水運用を可能にしている。

宮ヶ瀬ダムの運用が開始されたのは、平成13(2001)年4月。昭和44(1969)年に相模川が一級河川に指定されたことに伴い、国による大規模ダム建設計画が発表されてから、完成まで実に31年の年月を要したことになる。仮排水トンネル工事の着手が昭和59(1984)年3月、ダム本体建

設工事に着手したのは昭和62(1987)年11月。着工に至るまでには、清川村、愛川町、津久井町(現・相模原市)の1村2町にまたがる用地を取得することが先決だった。

厚木市に宮ヶ瀬ダム調査事務所が開設されたのは昭和46(1971)年4月。古谷好夫さんは昭和50年4月から昭和57年3月までの7年間を用地係長として、上野徳<sup>いさお</sup>さんは事務所開設当初から昭和58年3月までの12年間を用地担当者として、宮ヶ瀬ダムの用地取得に尽力した。

用地課の仕事は、調査のための説明交渉、補償のための土地物件調査、補償基準の協議、用地買収、生活再建の相談や移転の世話に至るまで、地元の人々の間に入り込んで行うものだ。計画発表の直後から予備調査は始まった。どこに建設するかを確定するためにはまずボーリングなどの試験調査をしなければならない。それらのために、所有する土地や山林に入らせてもらえるよう頼んで回った。「いきなり調査担当者が来て『山に入らせてください』と言っても、村の人は戸惑うばかりでしょう。ですから用地の職員が説明とお願いに回るのです。その段階で何度も足を運びました。住民も私たちも互いに若く、どこか気持ちが通じるところもありましたが、建設省(当時、以下同)の代

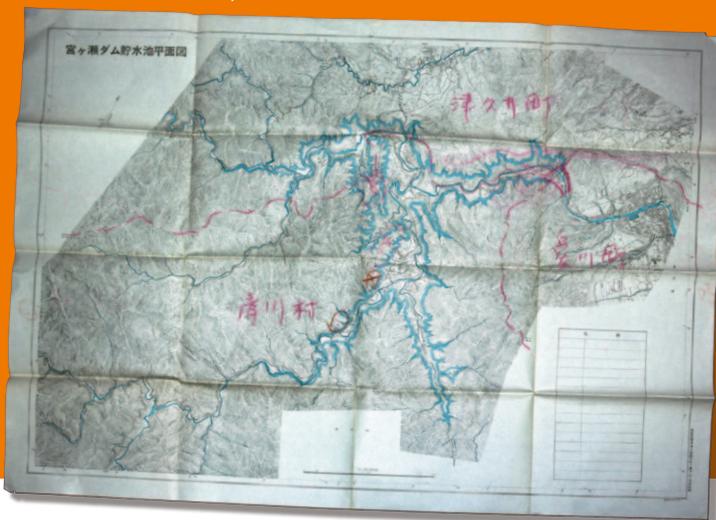


④⑤ 水の郷地区付近の展望台からは巨大なダムを見渡すことができる

⑥ 水没前の各集落にあった石像群は、一箇所にまとめて安置されている



⑦ 古谷さんが所有していた旧地図は、調査と交渉のために用地課職員が持って歩いたもの。水色で囲まれた部分がダム予定地。ダム建設のためには2,800筆もの土地を調査しなければならなかった



表としてきちんと向き合い、説明することが大切だと思います」(古谷さん)

「まだ基本計画も決まっておらず、調査の段階ですからダムができるかどうかも決定ではないわけです。しかし『分かりません』では協力してもらえない。ごまかしたり言葉を濁したら村の人たちは不信感を抱くでしょう。そこで『この調査をしてダムができなかったことは、今までにありません。ほとんどできる予定だけれど、まだはっきり言えないんです』と説明しました。ダム完成まで、長い付き合いになる人たちです。信頼関係を築いていくためには、正直に話すことが大事でしたね」(上野さん)

## 湖底に沈む土地の人々と信頼関係を築きながら

基本計画は昭和53(1978)年に策定された。それを持って、用地課職員は昼夜を問わず用地買収のための交渉に駆け回った。ダム対策組織はいくつかあったが、分裂や合併などを繰り返し、主に3つの協議会になっていた。賛成や条件付き賛成、条件付き反対など立場が異なり、用地の職員はそれぞれの協議会に説明をして回ったという。

「事務所のあった厚木からバスで土山峠<sup>つちやま</sup>を越えて宮ヶ瀬まで行き来しました。先輩が『あと幾度、土山峠を越えればダムができる』と歌ったのを覚えています。本当に、完成するのはいつだろうかという感じでした」(古谷さん)

しかし、宮ヶ瀬ダムの話が持ち上がる以前からこの地で

は神奈川県による三点ダム建設が計画されており、引き伸ばされたダム闘争に、人々は疲れも見せ始めていた。

「上流側の清川村・津久井町では、生殺しみたいなのはもう嫌だ、しっかりと生活再建に向けて補償してくれるなら認めるから、造るなら早くしてくれ、という方向に傾いており、協力的な人も多かったのです。下流側の愛川町はまだ反対の人も多かったですがね」(上野さん)

損失補償基準の団体交渉にあたっては、各協議会の交渉窓口を一本化するため「宮ヶ瀬ダム関連地域団体連絡会」が結成された。「建設省と連絡会との認識に食い違いないよう、お互いに毎回記録を取りました。ワープロもパソコンもまだない時代。連絡会の方では字のうまい女性が毎回の交渉記録をきれいに清書して、コピーして皆に配布していました。ごね得は許さない、自分たちできちんとしようと、住民側の意識は高かったです。こんなにうまくいくところはほかにはないでしょうね」と上野さんは振り返る。

宮ヶ瀬には建設省の設置した生活相談所があり、職員が毎日交代で一人ずつ詰めていた。

「雨の日は村の人も暇なものだから、鮎を焼いて持ってきてくれたり、酒を持ってきて一日喋っていったりしてね。そういうところで付き合いをすることも、信頼関係を築くには必要なことだったと思います」(古谷さん)

数々の苦難を乗り越え、昭和56(1981)年8月28日、水没地である清川村・津久井町との一般補償に関する損失補償基準書調印式が、宮ヶ瀬小学校の校庭で行われた。



8

8 水没前の清川村宮ヶ瀬地区。画面左の宮ヶ瀬小学校は標高247m。現在の湖面から約50m下に沈む。昭和57年頃  
（『宮ヶ瀬とともに』より）



9

9 ダムサイト左岸のボーリング調査。斜面に残された「ダム絶対反対」の看板が目にも染みる  
（提供：相模川水系広域ダム管理事務所）



10

10 宅地廻りの調査を進めながら、農地や山地の調査準備や補償基準作成の資料収集に奔走  
（『宮ヶ瀬とともに』より）



11

11 一筆調査や物件調査、説明会や補償交渉を経て、昭和56年8月28日に迎えた損失補償基準調印式（清川村、津久井町）。宮ヶ瀬地区の小学校で行った  
（提供：相模川水系広域ダム管理事務所）

「校庭に TENT を張っていたのですが、その日は朝から土砂降りの雨。我々の苦勞の涙だと思ったのを覚えています。調印式の時晴れて、私はずらりと並んだ各首長に『ここに署名をしてください』と書類を広げて回ったのです。この日ばかりは、やっとこぎ着けたという思いで、私も涙がにじみました」(古谷さん)

その後は、各戸、個別の契約に奔走した。1日に2回も3回も、厚木から宮ヶ瀬に通ったと上野さんは言う。

「古谷さんはそのときちょうど私の上司にあたる第一係の係長。私たち課員が2人一組で各戸を回っているときにも、皆が契約してきた書類を整理して予算管理をしたり、事務所に一人残されていてね。最後まではいと、協議会の会長さんの家の契約には一緒に行きました」(上野さん)

### 環境整備や観光利用の工夫で開かれた、人々に愛されるダムに

何よりも気を使ったのは、やはり住民の生活再建に関する補償だった。早くから代替地を準備し、住宅公団や村公社の協力を得て造成したうえ、国から直接売り払いをした。住民の多くは兼業農家で厚木市方面に働きに出ているため、ほとんどの人は厚木市郊外の宮の里代替地へ。村に残る人には住宅専用の宮の平代替地、商業施設専用の水の郷代替地を準備。墓地の代替地も用意した。損失補償基準を締結する前から先行して代替地の準備を進めていたため、移転はスムーズに行うことができた。

ダム本体は200万<sup>3</sup>に及ぶコンクリートをRCD工法（セメント量を抑えた超硬練りのコンクリートをならし固める工法）により効率的に施工し、37カ月という短期間で完成。豊かな自然環境への影響を最小限にとどめるさまざまな対策も講じた。

宮ヶ瀬ダムは工事中から現場見学会や近隣住民向けイベントを取り入れてきたが、現在も、観光放流や施設見学、神奈川県や清川村などと連携した周辺環境の整備や季節ごとのイベントなどを積極的に行っている。来訪者は年間約133万人(平成21年度調査)にも上るそうだ。神奈川県内の小学校の約4割が環境学習で訪れており、県内では、宮ヶ瀬ダムのために故郷を失った人々のお陰で確保されている、「県民の水」という意識を持っている人も多い。豊かな自然環境と調和したダムの姿は、故郷を失った人々の心を慰めるものにもなっており、元の住民の中にも、折に触れこの地を訪れる人は少なくない。

上野さんは平成13年3月の事務所閉鎖までに4回赴任し、合わせて約18年もの間、この地の人々と関わり続けた。古谷さんをして「上野さんは宮ヶ瀬の生き字引」と言わしめるほど、その当時の村の一軒一軒まで記憶にとどめている。

平成12(2000)年12月に行われた宮ヶ瀬ダム建設事業竣工式には約1,400名の工事関係者が一堂に会した。宮ヶ瀬ダム工事事務所副所長となっていた上野さん、久々に現場を訪れた古谷さんは、共にかつての苦勞を思い返したことだろう。

# 川越の繁栄に大きく寄与した 福岡河岸



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。第6回は埼玉県ふじみ野市にある福岡河岸です。

## 江戸と川越を結んだ新河岸川舟運

かつて埼玉県川越市の伊佐沼を源流としていた新河岸川は、現在、東京都北区にある岩淵水門で隅田川に合流する一級河川です。舟運が行われていた頃の新河岸川は、「九十九曲りや あだでは越せぬ 通い船路の 三十里」と川越舟唄に歌われるほど曲がりくねっていて、しかも豊富な水量を保っていたため、舟運に適した川といわれていました。

新河岸川舟運は、寛永15(1638)年に焼失した仙波東照宮

(川越市)の再建のために資材を運んだことがはじまりとされています。その後、川越藩主松平信綱の指示により改修工事が行われ、江戸と川越を結ぶルートが完成。舟運が本格化したのは、正保4(1647)年頃のことです。沿岸には河岸場が次々と開かれ、福岡河岸もその一つでした。

## 福岡河岸を活気づけた3軒の船問屋

福岡河岸は享保18(1733)年頃に、福岡村(現・ふじみ野市)の人々が農業の合間に回漕業(海上運送業)を営んだのがはじまりといわれています。福岡河岸には江戸屋、吉野家、福田屋の3軒の船問屋がありました。これらの船問屋は回漕業の他に、農家に肥料を売り、引き換えに受け取った農産物を江戸に回漕する仲買商も行うなど、商売熱心だったようです。

江戸時代末期に最盛期を迎えた新河岸川舟運。川越方面からは米、麦、川越いも(川越地方で穫れたさつまいも)などの農作物や木材を、江戸からは肥料類や日用品が運ばれ、取り扱う荷物、数量は日に日に増えていきました。さらに明治



福岡河岸の荷船(大正6年)。右奥に見えるのが養老橋  
写真提供:ふじみ野市教育委員会



福岡河岸記念館。市指定文化財回漕問屋福田屋の主屋(右)、離れ(中央)、文庫蔵(左)。明治時代に築かれた建物が残っている



新河岸川の守り神がいた大神神社から移築された石灯籠



荷船で運搬された大瓶



仙波東照宮。火災で燃えてしまったこの仙波東照宮を再建するため、江戸から資材を運んだのが新河岸川舟運のはじまりといわれている



福岡河岸記念館の離れの最上階から見える景色。よく晴れた日には筑波山が見える。眺望のためだけに建てられたといわれており、人をもてなす時などに使用されたという

福岡河岸の船着場。左に見えるのが養老橋。対岸は古市場河岸



船問屋の一軒だった吉野家土蔵の鬼瓦



時代になると福岡河岸には足袋屋、鍛冶屋、桶屋などの他に、荒物屋やうどん屋など近隣に住む人を相手とする店が軒を連ね、賑わいを見せていたといえます。

しかし明治28(1895)年、国分寺・川越間を結ぶ川越鉄道(現・西武新宿線・国分寺線)の開通により、回漕業は縮小を余儀なくされました。江戸屋と福田屋は小売業に移行。ついに明治末期、両店は廃業に追い込まれました。大正末年まで船問屋として営業を続けたのは吉野屋だけでした。

大正3(1914)年には東上鉄道(現・東武東上線)が開通。その後大洪水がきっかけとなり大正10(1921)年に新河岸川の改修工事が始まると、昭和6(1931)年に通船停止令が出され、300年近い歴史を持つ新河岸川舟運は幕を閉じたのでした。

ふじみ野市には福田屋の建物が残っており、福岡河岸記念館として一般に公開されています。川越に繁栄をもたらした新河岸川舟運の歴史を肌で感じることができる場所です。



## 江戸川の水が逆流し洪水に。 「逆川」と呼ばれた坂川

千葉県松戸市には、江戸川とほぼ平行するように「坂川」が流れています。坂川は、松戸市下矢切の辺りで江戸川と合流しますが、ここに煉瓦造りが印象的な水門があります。これが柳原水閘やなぎはらすいこうです。明治37（1904）年、坂川の氾濫を治めるために建設されました。

かつて坂川の中流域は、沼が点在する低湿な土地で、江戸時代には新田開発が活発に行われました。この辺りの多くの人々は農業を営んでいましたが、坂川はよく氾濫を起こしたため、豊作にはなかなか恵まれなかったといえます。大雨で江戸川が増水すると、合流点から坂川に流れ込み洪水を起こすことが原因でした。坂川は当時、江戸川の水が逆流してくることから「逆川」と呼ばれており「3年に一度収穫があればいい」といわれていたほどです。

人々は坂川の逆流をなんとか止めようと、江戸時代の頃から坂川の河道改修や流路延長を繰り返し行ってきました。天保7（1836）年には第二次坂川堀継工事（流路延長工事）により、江戸川との合流地点に水門を建設。明治37

年には、流域の4町村で組織された坂川普通水利組合によって、新たな水門を建設しました。これが柳原水閘です。以降、90年にわたって坂川の治水を支え続けました。

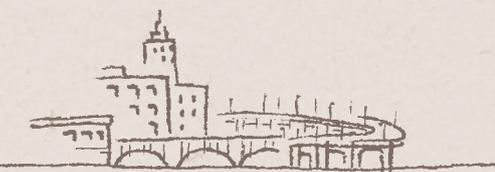
## 茶と白のコントラストが映える アーチのデザイン

柳原水閘は煉瓦造りの水門です。通水部は4連の欠円アーチを成しており、下流側の面には江戸川からの逆流を防ぐ木製の引き上げ式ゲートが設けられています。関東地方において、このような水門は明治時代中期から大正時代前期にかけて多く建設されましたが、それらの中でも柳原水閘はデザイン性のよさが注目されます。

特徴的なのはアーチのデザイン。全体はイギリス積みで組まれた煉瓦造りですが、アーチ部分の側面には大きさの異なる石材を使用し、放射状に見えるように組まれています。また、「横黒（鼻黒）」という表面を強く焼き締めた煉瓦が用いられているため、煉瓦の濃い茶色と石材の白色のコントラストが一層際立っています。

設計したのは工学士の井上二郎です。鬼怒川水力電気事業や京浜運河工事の設計、手賀沼の新田開発事業など

上流側から見た  
柳原水閘



## 関東の土木遺産 第27回

松戸の治水事業を語り継ぐ

# 柳原水閘

千葉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。

第27回は松戸市坂川の逆流を防いだ柳原水閘です。



下流側から。引き上げ式  
ゲートが設けられている



で成果を挙げたことで知られています。井上は明治33(1900)年に東京帝国大学大学院工学科へ進み、河川工学を専攻。学生時代から煉瓦造りの水門建設に従事し、明治35(1902)年に栃木県技師となりました。

柳原水閘の設計にあたったのは技師となって2年目の明治36(1903)年から翌年にかけてのこと。わずか1年で任務を遂行したのです。

## 松戸市の治水事業の歴史を伝える 貴重な存在に

平成に入り、松戸市の治水事業は大きく発展しました。国分川分水路が完成し、柳原水閘の下流には新しく柳原水門や柳原排水機場も建設され、柳原水閘は平成6(1994)年、その役目を終えたのです。

翌年、松戸市は同市の治水事業の歴史を後世に残していきたいという思いから、柳原水閘を松戸市指定文化財に指定しました。さらに平成16(2004)年には、柳原水閘の100周年記念式典を開催。同時に土木学会選奨土木遺産に認定されました。土木学会は選奨理由について「明治期に造られた樋門で、4連アーチの大規模な煉瓦造りは美しく、数少ない貴重な構造物である」と述べています。ま

た、平成19(2007)年には経済産業省の近代化産業遺産にも認定されました。

現在、柳原水閘の周辺は親水広場として整備されており、記念碑には柳原水閘の歴史や設計者の井上二郎の名が刻まれ、その功績を称えています。親水広場の側を流れる坂川は穏やかに流れており、子供からお年寄りまで多くの人が訪れ、憩いの場としても利用されています。

先述のように、柳原水閘の周辺には柳原排水機場をはじめ、千葉県水道局栗山浄水場など大規模な治水・利水施設が集積していますが、選奨土木遺産選考委員、日本大学理工学部まちづくり工学科の阿部貴弘准教授は、柳原水閘についてこう評しています。

「100年を超える歴史が刻まれた風格ある柳原水閘は決して他の大規模施設に引けをとらない存在感を誇っている」(『土木学会誌』『見どころ土木遺産』)

さらに「利根川や坂川の治水の歴史を伝えるとともに、地域生活の成り立ちを伝える教育資源にもなりうる」と語る阿部氏。坂川の治水を支えてきた柳原水閘は、松戸の治水事業の歴史を語り継ぐ貴重な存在として、これからも親しまれていくことでしょう。



アーチの側面には白色の石材を用いている

選奨土木遺産のプレート。柳原水閘のアーチにちなんだデザイン



親水広場内に建つ記念碑。  
柳原水閘の歴史と  
設計者の井上二郎の名前も刻まれている



親水広場。奥に見えるのが柳原排水機場



柳原水閘の中央に掲げられた銘板

# 会員のひろば

このページは  
会員の皆さまの  
投稿によるページです

ティグラウンド。  
肩の力を抜いて……



華麗なショット!……は難しい

桜美会のメンバーとともに  
(撮影:庵氏)



私の近況を、反省も含めて紹介させていただきます。

私は今、OBで結成した桜美会(取手桜ヶ丘GC)でゴルフに勤しんでいます。

名称:桜美会(会名:田中氏発案)  
設立:平成26年3月7日  
役員:元締 佐野氏  
幹事 瀬尾氏、大原氏、私  
会計 後藤(勝)氏  
会員:16名(OB)  
活動:第2・4土曜/毎月  
持ち回り4組予約  
コンペ5回  
忘年会開催など(交流会)

## 魔のホールでの反省

平成27年12月の土曜日のプレーを振り返ってみました。

### ①NO12 / 352Y / P4

魔のミドルHで、右の池に入れないことが課題!

②100Y前方にクリーク、右方向150Y先からグリーンまで池がのび、池越えは直角の壁が立ちはだかる景色の良い広いホール。

③前方クリークに入らないように、右方向の池に行かないよう、左方向が広いので欲を捨てて慎重に、安全第一で、肩の力を抜き、「ヨイ ショット!」とっと?

④と思いきや、ボールの手前で欲が顔を出し、思いとは裏腹に、150Y先右の池方向ラフに突入! 仕方ないか……。ピンまでは直線で200Y。ここは冷静に欲を捨てて、当初の予定どおり左方向から迂回し安全第一で、残り100Y地点(2打地点)に4Iで軽く運ぼう!

### ⑤「ナイス ショット!」

よし! ピンまで110Y。ここは前方の池を避け得意の9Iで軽く池の左端を狙う。安全第一で肩の力を抜き、「ヨイ ショッ

ト!」とっと?

⑥とと思いきや、またまたボールの手前で欲が顔を出し、ヘッドアップ、シャンク……。ヤメテー! 右グリーン手前の池に一直線に突入! 何てこったい(?\_?) 1ペナで池脇ラフからピンまで50Y。肩の力を抜きSWドロップ(5打地点)で軽く池の左端狙う。

⑦肩の力が抜けすぎ、ラフに負けて、グリーンの手前3Y。ピンまで残り20Y。ここからなんとしても2パターでお願い祈願。距離感と感性を信じて……。

⑧よし! カップまで1.3m。やや上り? 平ら? もしかしたら下り? ここはまっすぐ強めに、えい! かりうじてカップイン! 結局、6オン(池1ペナ)の1パットでP7のトリプル。今回も課題解消ならずで終了。

### ⑨HDCPボード

ハンディ36のプレートが、ボードの右最下位の隅に位置し、こぼれ落ちそうになっている。池への課題克服ができない限り、欲を捨てない限り、右下隅から脱出できないのだろうか? 35になりたい!

## 62歳年を迎えるに思うこと

最後に私自身のこれまでの振り返りと、これからの目標を述べたいと思います。

### ●思い残していること

- ①5千円以上の「うな重」「ステーキ」「スキ焼き」「豚カツ」を食べていない。
- ②身の回りの不用なものの整理ができていない。
- ③青樹10代(19歳)の体型を取り戻し、桜美会コンペで活躍したい。
- ④中之条の「実家宅」と「墓」の行方をまだ定めていない。

### ●これからの贅沢

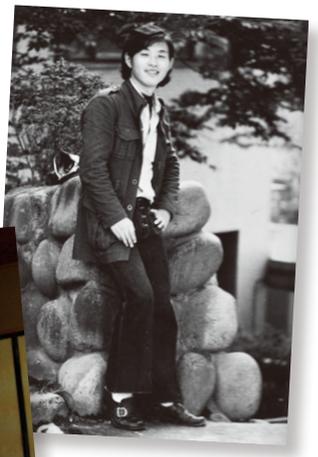
- ①家で飲む日本酒は「純米大吟醸」にこ

# 桜美会(取手桜ヶ丘GC) 活動中!

## 吉田英男

株式会社福山コンサルタント東京支社技術顧問  
元道路部地域道路調整官

青樹10代(19歳)の頃と、  
40年後の現実、60代スタートの頃  
(60歳。平成26年3月、四万温泉にて)



だわる。

- ②下着類は「ファッションセンターしまむら」で一番高いものを買う。
- ③衣類・食類・日本酒は、値段を見ないで買う。
- ④「温泉・日本酒・そば・うどん・中華そば」巡りの、自由旅に出る(自動運転搭載車の発売に期待)。

●人生の仕舞いにあたっては……(2020 東京五輪までは安全第一!)

- ①残り1カ月は「豚カツ→カツ丼→カツカレー→唐揚げ」のローテーションで後悔なく仕上げたい。
- ②女房と桜美会のメンバーと協会会員方に「健康第一」の言葉を託しつつ……さらば、ありがとう! と。

# 会 員 情 報

平成27年10月1日～  
50音順・敬称略

## 新会員をご紹介します

新しく4名の方々が入会されました。これからよろしくお願いたします。

氏名	現勤務先
小池 幸男	パシフィックコンサルタンツ(株)
渋谷 文利	日本コーケン(株) 中日本支店

氏名	現勤務先
田澤 幸治	(一財) 道路管理センター 東京支部
松浦 弘	いであ(株)

## お悔やみ申し上げます

2名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
茂呂 豪男	平成27年10月	千葉国道 出張所長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
齊藤 三男	平成27年12月	常陸 課長

## メール情報サービスのご案内

今年度より会員を対象とした講演会の開催案内、会員情報等のメールによる情報サービスを行っています。  
未登録の方で情報サービスを希望される方は、右記にて登録をお願いします。

### 登録先・窓口

一般社団法人関東地域づくり協会  
総務課 高橋 順一  
TEL: 048-600-4113  
メールアドレス: takahashi13@kt-chkd.or.jp

## 編集委員会だより

2016年1月

**あ**けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は9月に台風18号や台風(17号)から変わった低気圧に向かつて南から空気が流れこんだ影響で、関東・東北地方では記録的な大雨となり、各地で浸水被害が発生しました。中でも利根川水系鬼怒川の左岸、茨城県常総市御坂町地先付近において堤防が決壊し、甚大な被害が発生しました。当会としても対策本部を設置。防災エキスパートの皆さまにも復旧に向け、現地調査等、多大なるご活躍をいただきました。出勤していただきました防災エキスパートの皆さま、本当にお疲れさまでした。

さて、今年も申年です。申年は、「申(サル)」が「去る」という意味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」など、いいことや幸せがやってくるという年とする説があります。そして、日本の各地に、「申年に赤い下着を贈ると病が治る」「申年に贈られた下着を身に着けると元気になる」などの昔からの言い伝えがあり、現在でも信じられています。今年も元気で、健やかな年でありませうように。

(編集委員 J・T)

**編集委員**

- [関東地域づくり協会]
- 飯田芳夫
- 泉達也
- 川部和人
- 櫛引繁雄
- 高橋順一
- 仲川博雄
- [会員]
- 小林豊(株)大本組
- 田中良彰(大成建設(株))

ピックアップ

第5回

関東の道の駅

発酵・醸造文化を  
町おこしのきっかけに  
道の駅発酵の里こうざき



平成27年4月に開業したばかりの道の駅発酵の里こうざき(千葉県神崎町)は、神崎町の発酵・醸造文化をテーマにした特色ある道の駅である。海外でも注目を浴びる日本酒や日本食。こだわりの発酵食品を求め、多くの観光客が訪れている。

神崎町の発酵・醸造文化で  
観光客を呼び込む

道の駅発酵の里こうざきは平成27年4月にオープンした新しい道の駅です。神崎町で育まれてきた酒、味噌、醤油づくりを中心とした発酵・醸造文化を広く知ってもらい、観光の促進を図ろうと設立しました。圏央道の開通で成田空港へのアクセスがよくなり、また圏央道と国道の両方からアクセスできるゲートウェイとして機能しています。地方創生が期待されることから、重点「道の駅」にも選定されています。

清酒醸造元・鍋店株式会社社長で、駅長も務める大塚完氏は、道の駅設立の経緯を次のように話します。

「神崎町には鍋店株式会社と株式会社寺田本家という2軒の酒蔵があり、9年前から新酒を振る舞う『蔵まつり』を合同で開催しています。それまでは2軒の酒蔵が別々で新酒まつりを行っていましたが、それぞれ酒蔵で4千人ほどの集客があったのですが、合同で行うようになってからは2万人が訪れるようになったのです。発酵・醸造文化が町おこしのきっかけになればという石橋輝一町長の強い思いもあり、道の駅の設定が実現しました」

今後はパーキングエリアの拡張や  
各施設の充実力を入れる

現在、道の駅発酵の里こうざきには、月に5万人が来場しています。お目当てはやはり発酵食品。清酒や神崎町で生産された味噌や麹が棚の一角を占めます。最近は塩麹や甘酒がブームで特に女性に人気。商品が飛ぶように売れている一方、課題もあると大塚駅長は話します。

「味噌は1年に一度しか生産できないので販売数に限りがあります。今後はその対応もしていかなければなりません」

この他、パーキングエリアや地元産野菜売り場の拡張、商品開発、さらには外国人観光客への対応など、今後を見据えた計画はすでに進行しています。

「日本食は世界で注目されていますし、当駅でも数力国語のパフレットを置くなど、利用しやすい環境づくりを進めています。今後もたくさんの人に神崎町の発酵・醸造文化に親しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っていく予定です。神崎町全体がもっと明るく、そして潤う仕組みをつくっていきたくと思っています」(大塚駅長)



大塚完駅長



味噌や麹は女性に大人気

新鮮市場。  
地元農家から直送の  
新鮮な野菜が並ぶ



道の駅「発酵の里こうざき」はカフェ&レストラン、発酵市場、新鮮市場の3つの施設がある。発酵市場では観光案内やお土産の販売を行っている



お土産には花山水ケーキと麹ぐるどがおすすめ。今後も商品開発に力を入れる

